



やりたい
人妻
との
交わり方

畠山桃哉

いずみ
コミック
HALF



やりたい
人妻との
交わり方

畠山桃哉

いずみ
JEWEL
HALF



僕の部屋の隣に住んでいる女性で…

結婚して夫婦で生活している

黒髪の人妻



その頃の僕は…

じゃあ行ってきました



一人で図書館に入り浸っていた…

それは僕にとってごく当たり前のことだった

加々



このことが起きるまでは…

あ



あらトモフミくんこんにちわ



あどうも…

この人はおぼた小幡アサミさん



あ…

それじゃあね

そこまで深い
付き合いと
いうわけでは
ないけれど…



いい匂いだな〜

彼女を見るたび
心がときめいた



アサミさんは
とても
静かな人だ

隣の部屋で
生活していながら
騒いだり大きな声など
聞いたことがない

そしていつも
マンションの公園で
物静かに
本を読んだりしている

清楚で上品を
絵に書いたような
人だ…



図書館

きっとあんな美人は
旦那はもちろん
たくさんの人から
愛されているに
違いない

同じ本好きでも
ボツちな僕とは
雲泥の差だ…

まあいいけどね

僕は本さえ
読めればそれで…

さて
こないだの
続きは…



そんなに簡単に
自分を変えられ
るなら誰も
苦労しないよね…

さて
次は…と

読破完了!

よし

うーん
面白かったけど
前のよりは
今一つだった
ような…

テーマが
自分を変えるとか
そういう話
だったからかな…

ごめんな
さい…

おどかす
つもりじゃ
なかったん
だけ…

わっ!?

気まづくなって
部屋から
逃げ込んだ二人

あんまり
熱心に本を
読んでいる
ものだから…
つい見とれ
ちゃって…

小幡さんも
図書館を利用
されるんですね

ええ時々
でも今日は
特別で…

見納めになると
思ったものだから
一度地元の図書館に
来てみようかと…

私達近いうちに
引っ越すんですよ

だから…

え？

そそうなん
ですか…

なんてこった
今日は人生
最悪の日だ…！

……

実はね…

ずっと
気になってたんだ
トモフミくんのこと

隣に住んでる
男の子って
どんな子なんだ
ろうって

アサミさん…！？

トモフミくんも
気にしてた
でしょう？
私のこと

だから私も…ね





それで思ったの

昔の私と同じで
他人とうまく
距離が取れない
子なんだなって

え？
アサミさんが…

そんな風に
みえない？
私も子供の頃は
ずっと一人ぼっち
だったのよ



でもそのうち
違う世界が
あることに
気づいたの

トモフミくんにも
知ってほしいな…
いろんな世界

……











これが
女の人の
膣内…！



めちやくちや
気持ちいい…っ

生暖かくて
ぬめぬめして…



チンコが
蕩けそうだ…っ



ああん
気持ちいい…っ

その調子で
腰を動かして…っ



私も動きたく
なっちゃった…！

ええ？

ごめんね
トモフミくん



私も
久しぶりだから
気持ちよくって…

あん

あん

それに
トモフミくんの
おちんちん
想像以上に
素敵なんですもの…っ！

ぐわん
ぐわん
ぐわん
ぐわん
ぐわん



もう少し
我慢して…

あん

私ももうすぐ
だから…っ



ああダメです
アサミさんっ

そんなに
動かれたら…っ！

ぐわん
ぐわん
ぐわん

ぐわん
ぐわん
ぐわん

ぐわん
ぐわん
ぐわん

ぐわん
ぐわん
ぐわん





それで…あの…
まだいいですか!?

ふふ…
全然衰えて
ないのね



すみません
アサミさん
もう我慢
できなくて…

いいのよ
よく
がんばったわね



もちろん
いいわよ
トモフミくんの
気の済むまで…

好きなだけ
気持ち
ぶつけてみて…

ああ…んっ



アサミさんと
セックスして
るんだ…っ！

僕は今
本当に…



射精した
ばかりなのに
全然熱くて
硬い…っ

すごいわ
トモフミくん…っ



ああ…
ずっと憧れてた
黒髪が目の前で
揺れている…



ああ…っ
オチンチン
膣内でまた大きく
なってる…っ

とっても
気持ちいい…っ



いつも
嗅いでいた
あの匂い…！

たまらない…っ！



アサミさん…っ！





数日後
アサミさん夫婦は
引っ越してしまった

しばらくして
僕のもとに
アサミさんから
本が送られてきた

これは
あのとき
僕が図書館で
読んでいた本…

あれから僕は
変わったのか…
正直言って
わからない

アサミさん…

ただ少しは
前向きになったのと
年上好みの趣向に
拍車がかかったのは
間違いない

END



そお？
よかったわく

そして
この女性
は
島口真琴さん



はい
どーぞ

召し上がれ



い
い
た
だ
き
ま
す

僕の名前は
嶺川 智紀

ママみある人妻



ごく普通の
会社員を
しています

はい

おいしいです

どう？
おいしい？



僕の部屋の
隣に住んでいる
人妻さんです

たくさん
食べてね

どうして
このひとが
僕の食事を
作ってくれて
いるのか



はあ
本当に美味しいな
マコトさんの
ごはん…

それ以来
真琴さんは
なにかと僕の世話を
買って出てくれたのです



それは僕が
慣れない
社会人生活で
疲弊しまくった結果…

部屋の前で
行き倒れたのを
真琴さんに
助けて貰ったのが
きっかけでした…

ちょっと
大丈夫!?



智則くん
ほっぺに
ご飯粒…

え?



こうして
私生活を支援し
相談にも
乗ってもらい…

仕事も
自分にあつた
会社へ転職…



あわてて
食べなくても
いいのよ

まだいっぱい
あるんだから…



真琴さんの
おかげで
僕の人生は大きく
変わったのです…

すみません
なにか
なにもまで…

いいのよ
好きで
やってるん
だから

水につけた
だけだから
皿洗いは
お願いね

そしてもう一つ
真琴さんに
お願いしていること…

それは…

すみません…
あとあれも…

本当に
甘えん坊ね
智紀くんは…

気持ちいい？

いいわよ

ミッ

さわ

さわ

はい
とっても心が
落ち着きます…

すいません
いつもいつも
わがママを
聞いてもらって…

あの…
旦那さんは…

しかし…
今日はいつもと
勝手が違って
いたのです…

ねえ
智紀くん…

わたし
思うんだけど…

智紀くんは
自信を持てる
ようになれば
もっと上手く
いくんじゃない
かしら？

あの人なら
気にしなくて
いいわ…
帰り遅いし

好きなだけ
私に甘えて
いいのよ…

こうしていつも
真琴さんは
僕のストレスを
軽くして
くれました







ごめんね智紀くん
もしかしてこういうの
初めてだった？

はい…でも
マコトさんが
初めてで
嬉しいです

ほんと？
私も
嬉しいわ…

いつかこうなれば
いいなって
思ってたから…



リラックスして
私に任せて…

ああ…っ

リードして
あげるから…！

ああん…
わかる
智紀くん…っ

オチンチン
すごく
腔奥まで
はいつてるよ…!!

ああん
ああん

ああん

ああん

ああん

ああん

ああん

童貞卒業
おめでとう

どお
はじめてした
感想は…?

たくさん
扱いてあげる
から…っ

いっぱい
気持ちよくなつて
頂戴ね…っ!

ふふ…
うれしい

すごく
気持ち
いいです…っ!

ああん

ああん





ああんっ

いいわ
その調子よ...っ

ああんっ

オチンチンが
刺激を受けて
気持ちいい
でしょう?



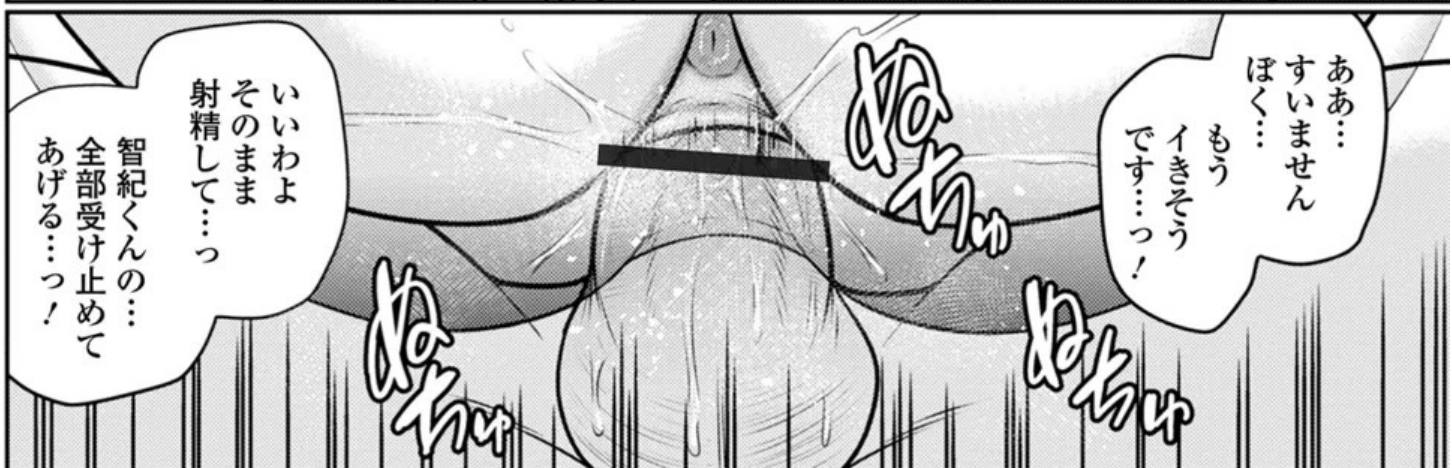
私も...
すぐく
気持ちいい...っ!

ああんっ

110

110

110



ああ...
すいません
ぼく...
もう
イきそう
です...っ!

ああんっ

ああんっ

ああんっ

いいわよ
そのまま
射精して...っ

智紀くんの...
全部受け止めて
あげる...っ!



すごく
激しい……っ

オマンコ
壊れちゃそう……っ

すすいません
マコトさん……!

真琴さんの
オマンコ
すごく
気持ちいい……っ!

腰が
止まらないん
です……っ

でも……
あまりに
気持ちよくて……

……智紀くん



ほあ...

こんな
すごい
久し振りの
ううん
初めてかも...っ

私も...っ!

アッ

アッ

アッ



あふん

オチンチン
もっと頂戴...っ

ほあ

ぬちゅ

ぬちゅ

ああん...
オマンコが
感じちゃって
たまらない...っ!

ぬちゅ



はは

はは

なんて
エロいんだろう...

初めて見る
上気した
真琴さんの
女の顔...

真琴さん...

はは

はは

僕が真琴さんを
こんな顔に
しているのか…！

真琴さん…
すごく
キレイです…！



もう…
なによ急に

あぁ
ひん

そうよ…

真琴さん…

智則くんの
オチンチンで
すっかり
蕩けちゃった…



余裕が
出てきた？
カワイイわねえ

ごめんなさい
今度は私が
イキそう
だわ…っ！

おねがい…
一緒に
イキましょう…っ！







最近の俺は
ずっと寝不足だ…

それは安月給で
遅くまでこき使う
会社のせいでもあるが…

始まったか…

あん

あう

一番の原因は
この隣に住む
夫婦のせいだろう…

ズボラな人妻

ボロアパートで
声が筒抜けの
ところに持ってきて…

とにかく
この夫婦は
ほとんど毎日
セックスするのだ…!

はああん…っ

あん



オマンコ
気持ちいい…っ



ああん
すごい…っ



お願い
あなた…っ

もっと突いて
頂戴…っ



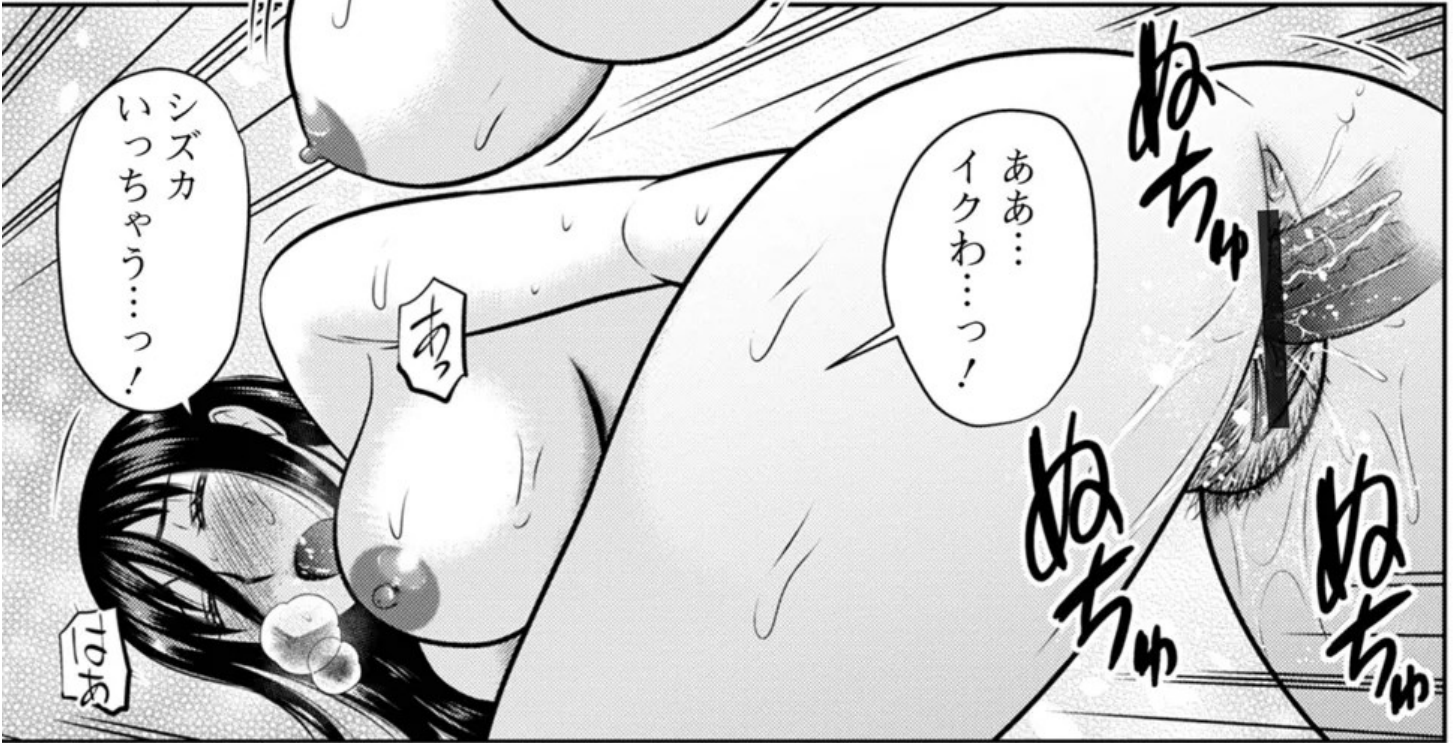
今はもう
完全に
開き直っていた…



以前は
耳栓をつけたり
寝る位置を
変えたり
試していたが…



シズカを
めちゃくちやに
して…っ！





そのせいか
俺はつい
とんでもないことを
口走ってしまった…!



勝手に
オカズにしておいて
なんだが
とにかく俺は
この状況にひどく
苛ついており…



ああ
ゴミ出し
してたのか…

どうも…



おはよう
ございます



あいかわらず
ノーブラか…



ああん…っ

気持ちいい…っ

……





いいや…

毎晩ご迷惑を
おかけしていた
みたいで…

その後の
彼女の言い分は
こうだった



ひえだまさき
稗田雅紀さん…
でしたよね

隣に住む
布施志津香と
申します…



貴方の話を
疑うわけではないが
一応確認したい

ついては一度
貴方の部屋に
上がらせて
もらえないか…と



どうぞ…

結局…

彼女の
言い分を
聞き入れる
ことにした…

一瞬いろんな
想像が頭の中を
駆け巡ったが…

…





ねえ
雅紀さん…
よかったら
一緒に…

騒音問題を
解決しませんか…?

ああんた
それ本気で
言ってるの…!!



だって
こんなに
カチカチ…

あ…っ



私…
ズボラなんです

だから
貞操観念も
超テキトウ…



ちなみに
夫はもう
寝てます
から…

安心して
ください…



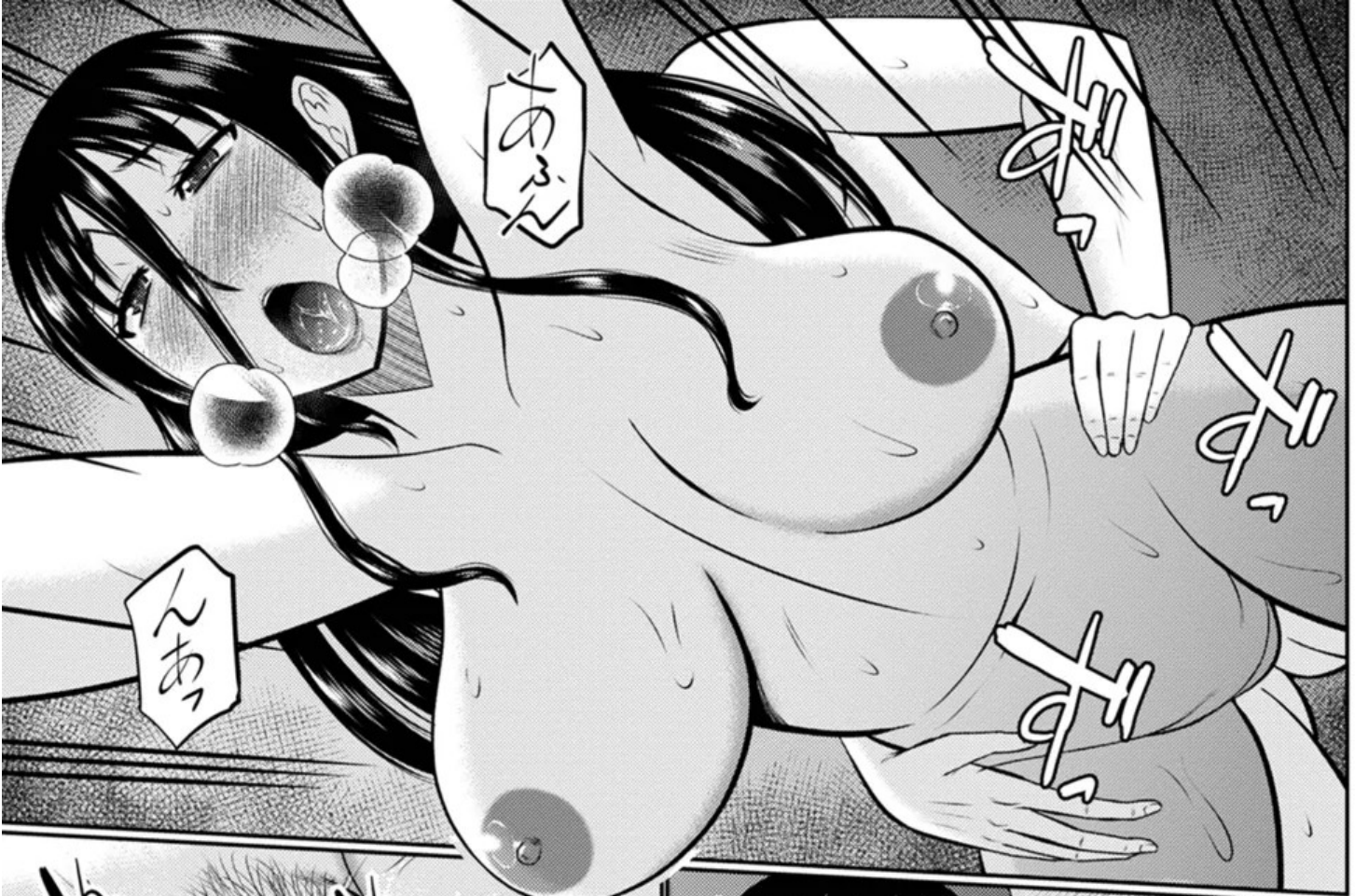
ふふ…
雅紀さんも
期待してたんじゃ
ないですか?

















その後
隣の嬌声に
悩まされることは
なくなったが…



体の疲れは
以前よりいっそう
酷くなってしまった…



その日
この俺
前野満は

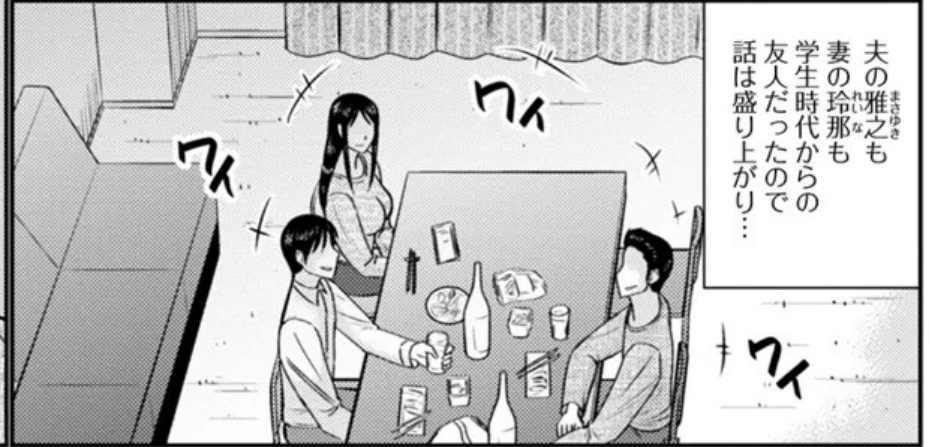


隣人の
三原夫妻に招かれ
夕食をともにした

その流れで
隣家でありながら
俺は三原家に
一泊させてもらう
ことになった



夫の雅之も
妻の玲那も
学生時代からの
友人だったので
話は盛り上がり…

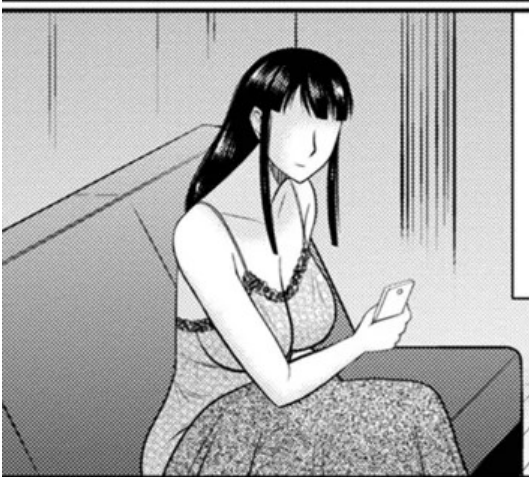


そして
その夜

ガキヤ

夜の人妻

俺と玲那は
スマホで
示し合わせて…



リビングで
逢い引き
したのだった…





今更…?
もうずっと
続けてきた
ことでしょう

いや
そうじゃ
なくてさ…

後悔したって
始まらないわよ



なんか
いいのかな

大丈夫よ
アノ人は一度寝たら
まず起きないから



最初は他愛のない
悩み相談だった

彼女は
子供ができず
夫婦仲が微妙なこと…
俺はいまだに
独り身であること…



そんな
慰め合いが
いつの間にか
こういう関係に
発展していた…

でも学生時代から
私のことを
想ってたなんて
気づかなかったなあ

うん まあ…
お前達仲が
良かったからさあ…

そうなの?

でもちゃんと
言ってほしかったな…











夫に女として
見られなく
なったしまった
妻と...

その妻を
ずっと思い続けた
独身男の慰め合い...



それがこの
関係というわけ
だった…









玲那は…
俺に言葉を
求めるけれど…

俺にはそんなモノ
必要なかった

この
蕩けた顔が
玲那の感情を
雄弁に語って
いるからだ…！

あの時
自分の気持ちを
打ち明けていれば…

はあん…っ

あ…っ



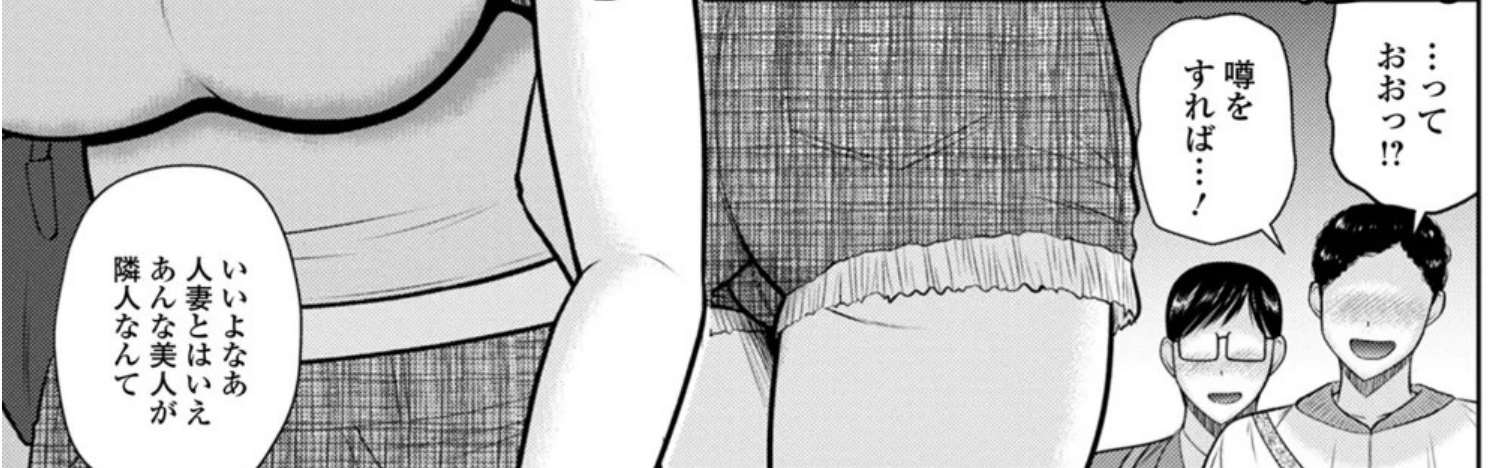








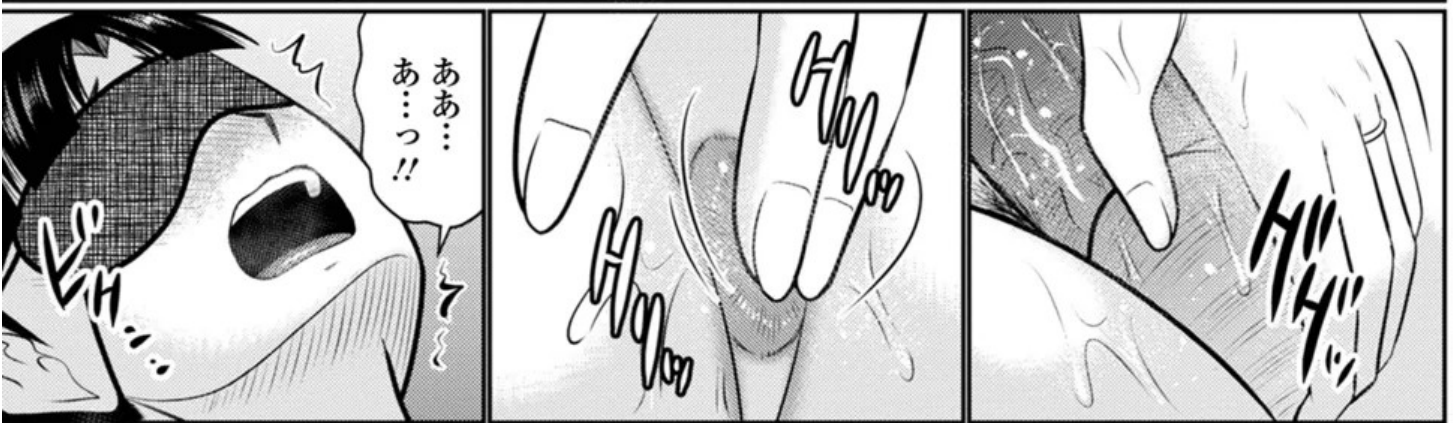
妻の人パンツホット













あゝあ
射精しちゃった

どうすんのよ
これ...!?

ぐわ
ぐわ
ぐわ
ぐわ



ごめんなさい
チサ様...っ

ふふ...
さすがオナ禁
してきただけあって
まだまだ元気ね

ああ...っ

でもほら...
すぐ勃起
できますから...っ
やめないで
ください...っ

1616

1616

1616

1616



ぐっ

ぐっ

ぐっ

いいわ
許してあげる!

ぐっ
ぐっ

そのかわり
してる最中に
萎えちゃ
嫌だからね!



はぁ

あ

ああん...っ
はぁ
挿入いっちゃった...!



相変わらず
大きいわ...
ハルオくんの
チンポオ...っ

あああ...っ!!

ぐっ
ぐっ







いい感じに
膣奥まで
届いてる…っ

ああん…っ

ああ…
チサ様…っ

僕のチンコで
感じてくれて
いるんですね！
嬉しいですよ！

マジで
感じちゃう…っ！

ちよつと…

その
チサ様っての
もうやめない？ 結構

恥ずかしいん
だけど…

だめです
僕にとつて
チサ様は
チサ様なんです！

？



ずっと
女性と縁のなかった
僕みたいな冴えない男と
寝てくれるなんて...

チサ様は
女神様同然です！



だから僕にとって
チサ様は
女神様なんですっ！

まったく...
どんだけ
ちよろいの
アンタ...!!

社会に出たら
苦労するわよ



でも...
まあいつか

ああ

ああ

こんだけ
気持ち
いいんだし…っ!!

ああ…凄い
締め付け
です…!

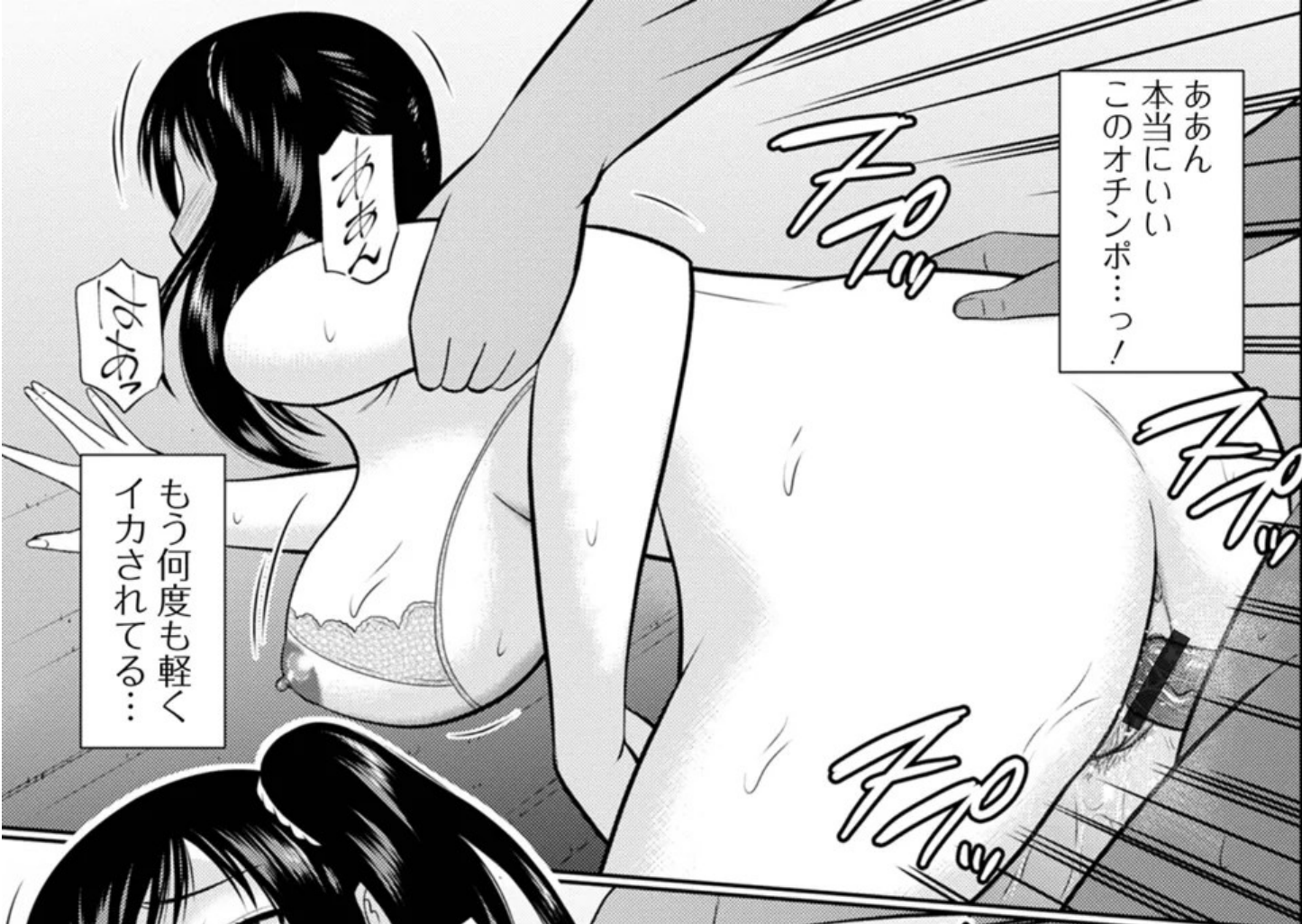
僕のチンコで
感じてくれて
いるんですね
チサ様…っ!?

もう…!

いちいち
確認するなって
言ってるの!

ああん…っ

充分
気持ちいい…
わよっ!



ああん
本当にいい
このオチンポ...っ!

ああん

もう何度も軽く
イカされてる...



今まで
いろんな男と
やってきたけど...

ああん

まさかこんな
オタクくんの
オチンポが
いいなんて...っ



ああ...
また
来てる...っ
また
気持ちいい...っ!





ああ
チサ様……
すごく気持ち
よかったです

あと……
まだイケます
から……っ

……



はー
すっきりした

そろそろ旦那
帰ってくるから
部屋戻るわー

あゝ
ところでアンタ
もしかして
同人誌ってやつ
描いてない

えっ!?

さつき部屋で
コレ見つけたん
だけどささ

コレ中に出てくる
男と女
完全にあたしら
だよな?

そそれは...

妻人ち

しかも内容が
男が女を
攻める話って...

あんな
そういう妄想
あったわけ?

すすいません
チサ様...

いいのよ...
っていうか
面白そうじゃん

今度
やってみない?

ええっ!?

END

ヒッポー

オレの名は
河内一哉

ごく普通の
時間を持て余した
学生だ

普段はコンビニの
深夜勤務の
バイトをしているが
人手不足ということで
時々昼間にも
顔を出している

いらっしやいませ

そこで
知り合ったのが
この女性

いらっしやい
ませ

石垣麻由子さん

最初は年上の人妻
ということ
遠慮もあったが
年も近いと
いうことで結構
仲良くなった

そんな
ある日...

ねえ
一哉くん

今日仕事が終わったら
ちよっと付き合っ
てほしいんだけど...

ええ
いいですよ
時間ありますし

この時は
簡単な買い物とか
そんなことだろうと
思っていたのだが...

コンビニの人妻

聞いてよ
一哉クン

旦那ったら
浮気してるかも
しれないのよく!!

どいん

ははは…
まさかそんな

ははは…

石垣さんの
思い違いじゃ
ないですか？

まさか
夫婦間の悩み事を
聞かされるとは…

だって
帰りがすごく
遅くなったし…

まあ仕事
が忙しいん
でしろう

やたら
女の人から
連絡が入るし…

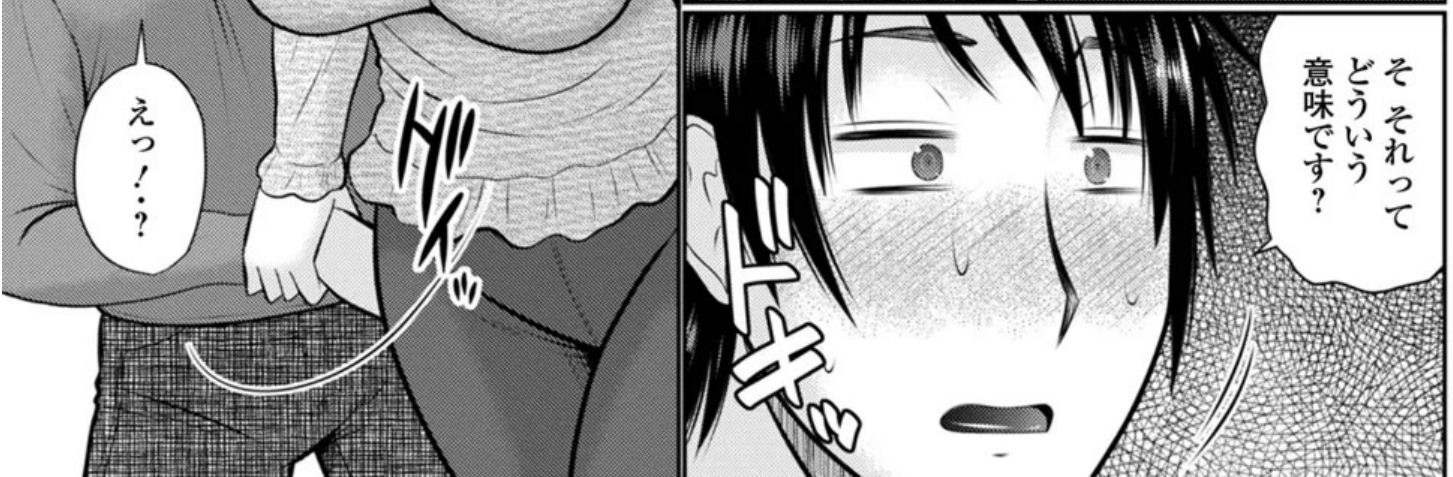
同僚じゃ
ないっすか？

会話もめつきり
少なくなつて…

疲れてるん
でしょう？
忙しいから…

……

……

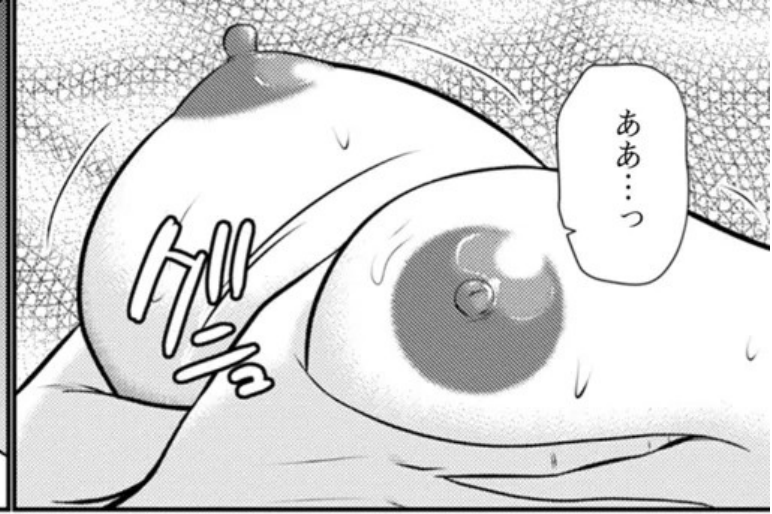






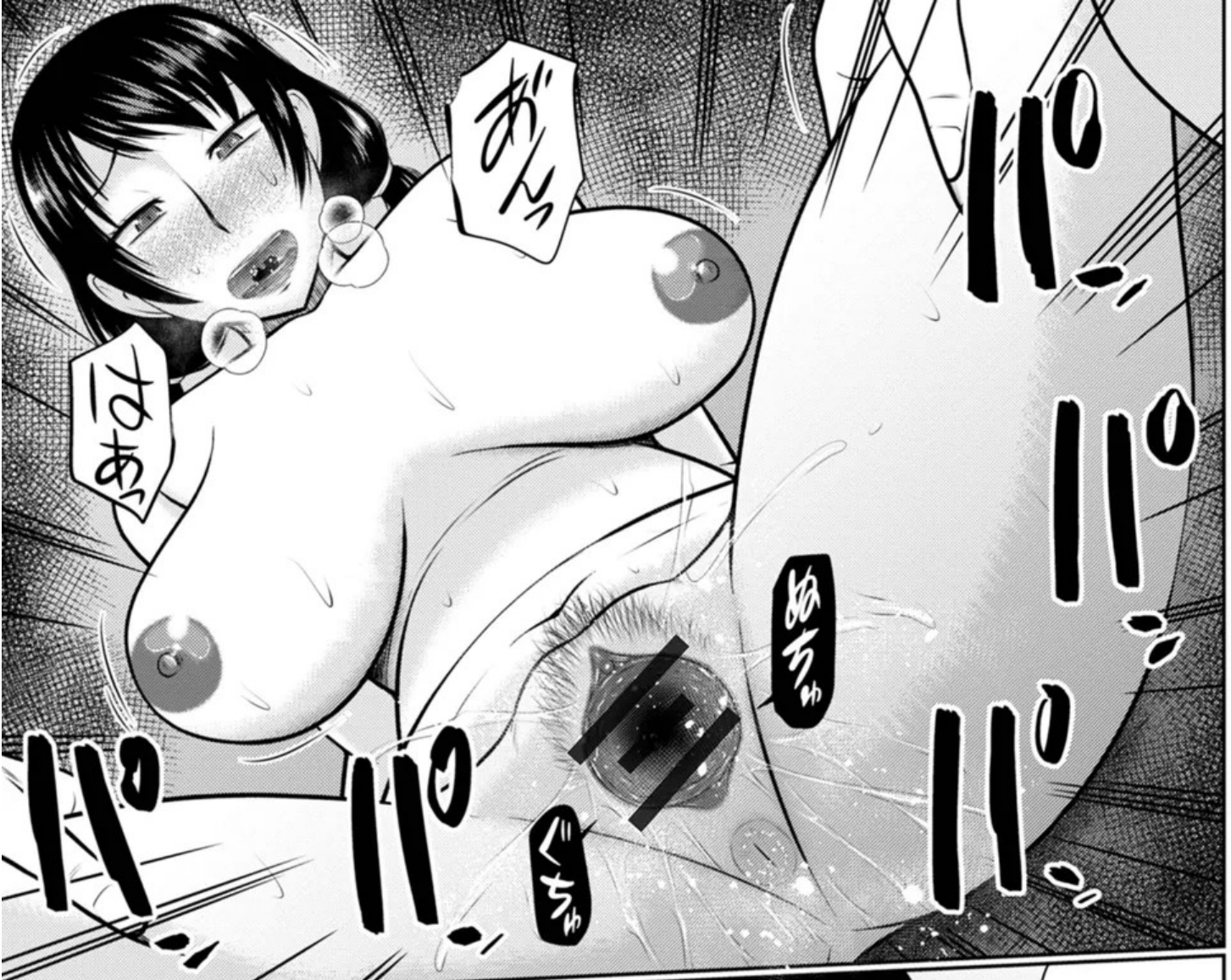










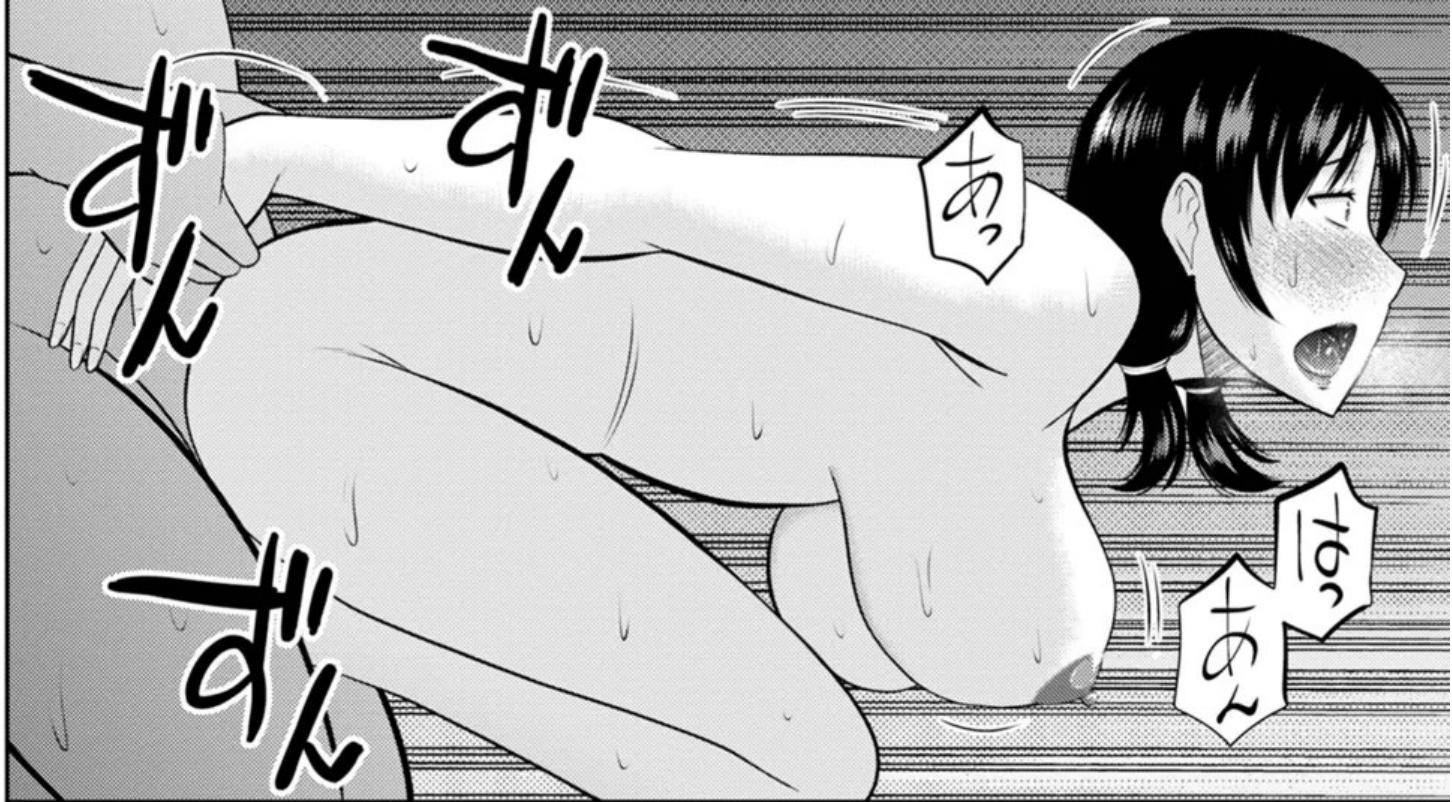


いい声
出ますね
石垣さん…っ

そんなに俺の
気に入って
くれました…！

ああん…っ







後でわかった
ことだが...

やっぱり
旦那さんの
浮気疑惑は
石垣さんの
勘違いだった
らしい...

それじゃあ
俺達の関係が
どうなったかって
いうと...

ぬ
//
ゆ

ぬ
//
ゆ

ああ...
石垣さん...!

で
射精...っ!

シ
シ
シ
シ
シ

ん
ん
ん
ん
ん

ん
ん
ん
ん
ん

ふふ...
ごちそうさま

ん
ん
ん
ん
ん

いらっしやいませ

カ
カ
カ
カ
カ

...

ん
ん
ん
ん
ん

一応
こんな感じで
続いているのだった

は
END
は